

独り言のつぶやき

梅辻 諄

この上賀茂には書いた物としての歴史記録の他に、噂としていつまでも語り伝えられる別の史実があります。これも正式の記録にはなく、いやむしろ故意に隠蔽した形跡がありありと窺われることで、そのうち皆が忘れてしまうことかも知れません。



奈良市山村町 円照寺正面

奈良市山村町の帯解おびとけに円照寺えんしょうじと云う奈良第一の由緒を誇る尼門跡寺院があります。いまはその寺の名前より華道の「山村御流やまむらごりゅう」の家元、「山村御所やまむらごしよ」の方が名が通っています。この寺は後水尾天皇の第一皇女、文智女王ぶんちのうが開山で、宮中からこの円照寺へ入られました。その時にお供をしたのが当時お付きの女官みようぶ（命婦 相模）であった我が家のご先祖で、皇女とともに出家して（文海尼ぶんかい）、その後はこの円照寺の創設と運営に大きい功労があったと伝えられています。中宮であった東福門院とうふくもんいんから大層な信任をうけ、東福門院の仲介で徳川幕府から寺領三百石を寄進されて寺の経済を支えました。寺の周囲は津の藤堂藩の領地であったので、寺との間にいろいろ複雑な問題も起こり、交渉にも大変苦労されたようです。しかし、東福門院とはよくよくウマが合ったらしく、東福門院の臨終のときには他のものを全部遠ざけて、彼女の手を握りしめながら亡くなったとは大したもの。彼女に連なる縁故で、その後も何人かの梅辻の女性がやはり皇女の入山とともに出家して、そこで生涯を閉じました。彼女たちの墓は円照寺墓地にあります。そんなわけで、私の家には戦後から法要の際には度々お呼びいただいて、円照寺に参上していた次第です。

前の御門跡の山本静山せいざんさんが昭和天皇の妹君であるとの噂は以前から流れており、昭和59年には週刊誌の記事にもなりました。歴史学者の末永雅雄みやしげさんはかつて円照寺の古文書

を整理された関係で山本静山さんと親しかったのですが、この先生も何かの記事で山本静山さんは皇女に間違いないと肯定していました。この頃はまだ山本静山さんもご健で、京都の高島屋の生け花教室へ毎月二回通い、何事もなく過ごしておられました。

ところが平成4年、山本静山さんがご存命であるにも拘わらず、『昭和天皇の妹君』なる単行本が出て、かつて隠蔽された秘密を丹念に追跡した内容でした。著者は著名な宮廷ジャーナリストの河原敏明氏です。あまり名も聞かない小さい出版社だったので、その内容が話題にもなりません。しかし、二年前、この本が文春文庫の一冊として再判されて、かなり多くの方が読んで驚いたようです。

それによると、山本静山さんは三笠宮崇仁殿下と双子で貞明皇后からお生まれになったそうです。その当時は双子は畜生腹と云われ、天皇の子にそんなことがあるべきでないとの迷信が支配的でありました。そして、男と女の双子は、心中者の生まれかわりと信じられていたので、これがもっと昔ならば、生まれたその場で女の方を殺し奉ったのだそうです。さすがに明治ともなればそんなことはできないので、男の子（三笠宮）はそのままに、女の子はひそかに京都へ移して育てられました。嵯峨野のある家に里子に出された後、山本子爵の養女として、皇女の門跡寺院である円照寺に入山されたことを克明に証人を尋ねて記事にしています。その山本静山さんが逝去されたのは平成7年4月のことでした。

山本静山さんがご存命の頃は家内の篤子も親しくして頂いて、年に二回の高島屋での展覧会や円照寺にも度々ご機嫌伺いに行っていました。御門跡は上賀茂から人が来たときは大層喜ばれ、「私は上賀茂の中川で育ったんですよ。上賀茂が懐かしい」と仰有るのが常でした。

その後、私も特に興味もないのでしばらく忘れてしまっていたのですが、ある時、滋賀県の中主町にある錦織寺（西本願寺滋賀別院）の住職であった木辺宣慈さん（天文名 成麿さん）からそれに関係ある話を聞きました。この和尚さんはお父上は醍醐家、お母上は九条家から出られた名門で、ご自身も戦前は男爵でした。若い時から天文が大好きで、僧職のかたわら東山の花山天文台の山本一清教授のもとへ通われ、太陽観測をしたり、反射望遠鏡のレンズの代わりをする鏡を磨いたりすることに熱中していました。つまり、天文台における私の大先輩です。年を取られてからは、浄土真宗木辺派の管長の傍ら、アマチュアのア天文研究者の団体である東亜天文学会の会長をされたり、滋賀県教育委員長も勤められました。私はこの方よりも20歳も年下でしたが、田舎ポット出の私を大変可愛がって頂きました。何回も鏡のテストのため、錦織寺にお邪魔して泊めていただきました。私が花山天文台で観測に使ったたくさんの、レンズの役割をする鏡は全部が木辺和尚の手によるもので、私の研究も大いに支援して頂いたわけです。

木辺和尚と話しているとき、「そう言えば君は上賀茂の社家だったな。ちょっと教えとこう。実は貞明皇后のお母さんは中川ふささんと云って、上賀茂の出身なんだ。昔の九条家では正妻は置かないで、家女房に子供を産ませたんだ」。中川さんは現在上賀茂から他所へ移られましたが、その中川さんの家の跡には、金谷章太郎さん宅が建っています（中大路町）。つまり、中川さんの娘さんが九条家にお手伝いさんとして勤め、身ごもって貞明皇后を産まれたわけです。そして、彼女の生んだ娘が大正天皇の皇后となったとき、九条家の

正妻として名を九条房子と変えられました。これは九条家で育ち、昭和天皇の従兄弟であった木辺和尚の話ですから間違いありません。

河原氏の調査でも、貞明皇后も九条家で産まれてすぐ里子に出されています。それは当然お母さんの実家の中川さんだったと思われます。そこで、山本静山さんが上賀茂の中川で育ったと云われたのはこの中川さんに間違いないでしょう。おそらく貞明皇后は畜生腹と云われた双子の一人を密かに育てるため、ご自身も育ち、お母上の生家である中川さん宅を選ばれたのでしょう。

それにしても戦前の皇室の保守的な体質は驚くばかりです。中川さんだけでなく、孝明天皇の皇后であった英昭皇太后のお母上も下鴨の社家であった南大路家の出身で、これまた秘密に包まれていたと河原氏は書いています。河原氏は山本静山さんが嵯峨野で育ち、山本家の養女として円照寺へ入ったと言う線で、かなり執拗に生存している証人から記憶を聞き出していますが、曖昧な点は拭えません。彼も作り話の臭いを感じ取ったようです。

同じようなつづやきをもう一つ。

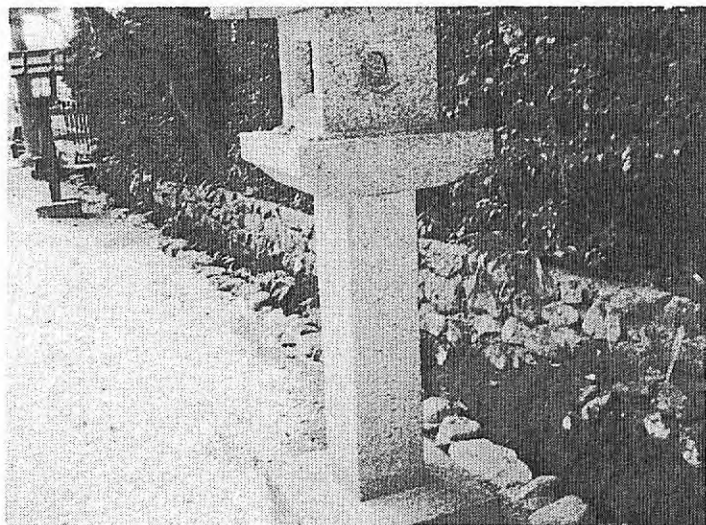
若い頃に、親しくしていた日本史の故 森杉夫教授から「大正天皇のお母さんの柳原二位局は大阪の安治川のほとりの染物屋の娘だった」と聞かされたときは驚きました。美智子さまや雅子さまばかりでなく、皇室も昔から健全な庶民の血を入れようと努力していて、そんな事もあったんだなと思っていました。ところが、その柳原のお局さまが上賀茂と縁が深く、大田神社の熱心な信者であったこと、その関係で今でも各官家の尊崇が上賀茂神社以上であると聞き、さらに驚きました。今は亡き藤木正直さんが生前私に「柳原二位局はこの上賀茂の同族の林家の出身で、われわれ同族の者はいろいろと以前からお世話になったんだ」と話されました。なるほど、わが家に残っている大正、昭和の頃のいろいろな上賀茂のイベント、例えば、遷宮や在実祭などのパンフレットやチラシに、柳原愛子の名が入っています。正直さんの話では「西池Nさんと云う人が若い頃（勿論第二次世界大戦以前）に住友の会社のロンドン駐在員で行っていたとき、何かの用事をお願いに行ったイギリス大使の吉田茂と云う男があまりにも傲慢で無礼なのでたまりかねた西池氏が思わず一発ブン殴ったそうです。怪しからん奴と思っても、相手は勅任官で、民間人がそれに暴力を振るったとなるとただでは済みません。犯罪となるか会社をクビになるかでピンチとなったとき、助けをお願いしたのは柳原二位局で、ほかならぬお局さまのとりなしにより、西池氏は詫びをいれて事なきを得たそうです」。この話は是非覚えておいてほしいと正直翁は云われました。お局さまがそこまで面倒を見られたとは驚きで、また、吉田茂と云う人もスケールの大きさを感じさせます。

明治天皇の側室で、権典侍であった柳原愛子さんとわれわれ同族との間はかなり濃密な連帯感があったことは確かで、以前から云い伝えられてきた林家の息女であったことは確かなように感じます。

今から五年前に明治学院大学の原武史氏による「大正天皇」（朝日選書）と言う本が出版され、はじめての大正天皇の評伝であり、今まで故意に曲げられたイメージを大きく変える内容であったので、たいそう評判となりました。その中では特に柳原局のことはとりあ

げられていませんが、この本に関連した朝日新聞の記事では原氏自身ははっきりと「柳原二位局の出身は不明」と書いています。とにかく、第二次世界大戦の前のごとですから、こと皇室にかかわる事は徹底して隠蔽工作がおこなわれたようで、おそらく林家の戸籍でも抹消されたのではないのでしょうか。林重明さんも見たことがないと云われますし、「賀茂県主同族知新録」にも書かれていません。

このような大正天皇と貞明皇后の御生母がともに上賀茂と関係のあった方であったことは、現在の皇室（皇統）に何かより一層の親しみを感じさせます。このままでは皇統が危ないとのことで、女帝でも養子でもと議論が盛んですが、なんとか血を続けて頂きたいものです。こんな話を同族の方々に話しますと、「そんな話は明治以前の上賀茂にはうじゃうじゃあったんだ」とのことです。確かに「賀茂神主補任史」にはだれそれ天皇や親王の生母との記述がたくさんあります。この上賀茂は皇室や公家などの人々の血液補給基地であったのかもしれませんが。それをひそかに語り伝えることがわれわれの御先祖たちのプライドの源泉であったかも知れません。



大田神社参道 柳原局寄進の石灯籠 『正二位 柳原愛子』

みたらしのうたかた 第5号

平成17年10月30日

発行 (財) 賀茂県主同族会 歴史勉強会
代表 〒603-8071 京都市北区上賀茂北大路町39
梅辻 諄
電話 (FAX 共) 075-711-2712